

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援みなのは波多江		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 10日		R8年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	R8年 2月 2日		R8年 2月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・放課後等デイサービスにおいて専門職(PT・OT)を配置し、児童の身体状況を詳細に把握したうえで支援に活かしている。	・遊びの中にリハビリ要素を取り入れ、楽しみながら体幹や筋力向上を図っている。 ・一人ひとりの発達段階に応じて負荷を調整し、無理なく継続できる支援を実施している。	・専門職間および支援員との連携強化。 ・定期的なケース会議による支援計画の見直し。 ・最新のリハビリ技術に関する研修や勉強会の検討。
2	・利用児一人ひとりとの関わりを大切にしている。	・1対1の個別担当制を基本とし、継続的かつ丁寧な関わりを実施している。	・職員間での情報共有を徹底し、連携しながら個々に応じた支援を継続していく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・各種取組や避難訓練等について、保護者への理解・周知が十分でない。	・ホームページ等での情報発信不足。	・活動内容をホームページで積極的に発信。 ・毎月の予定表にURLを掲載し、周知を強化する。
2	・保護者同士や地域との交流機会が少ない。	・防犯上の観点から、予約なしでの見学受け入れが困難。 ・交流会実施のための時間・場所の確保が難しい。 ・年1回の保護者会の参加率が半数以下。	・公園活動等を通じ、地域との関わりを増やしていく。 ・保護者会への積極的な声かけを行い、参加率向上を図る。
3			